

白毛門沢 沢登り

山城 : 谷川連峰 日時 : 2018年8月4日土曜日
天気 : 晴れ
参加者 : CL 砂田 松本(記)
山行タイム : 4日 5:30 土合駅~6:00 白毛門登山口 P~6:5 入溪~7:15 ハナゲの滝~
9:40 タラタラノセン~10:15 大ナメ滝~11:30 二俣~14:10 山頂
14:45 下山~17:30 登山口 P

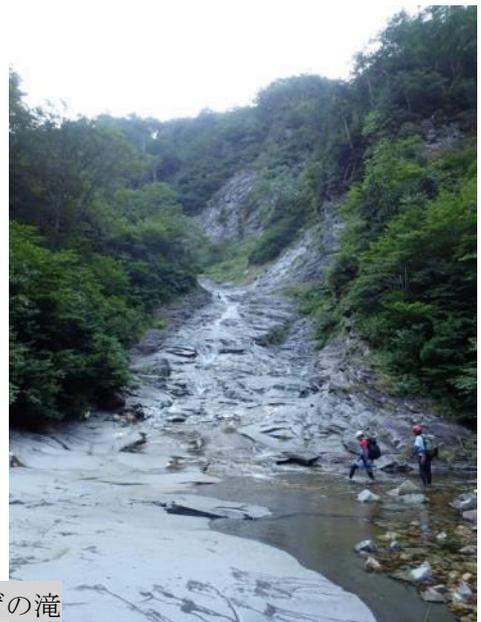
前夜、圏央道幸手 IC~関越道水上 IC、1:30 頃土合駅で仮眠の為にテントを張った。
当初予定の東沢釜ノ沢が、天候不安定の為、代替案の白毛門沢日帰りに変更になり
憧れの沢泊はおあずけとなったが、#久しぶりの沢登り#詰めると山頂へ到達できる
#土合駅泊ってちょっと通っばい、色んなワクワク感に溢れてしまい、
気温は20度をきりとても過ごしやすい夜だったが、ほぼ寝むれずに朝になった。

6時、白毛門登山口に駐車、ハーネス以外の沢装備をして歩き始め適当な場所から河原に降りる。
すぐに連続して美しいナメが現れる。下界では泳ぎたい！なんてたいそうな事を言っていたが、
プールのような釜を目前に、泳いでもいいよと言われても序盤で飛び込む勇気はなかった。
のちほど暑さに耐えられなくなったら浸かってみよう、と心の中で決めて歩く。
ほどなく名前は変だが写真より遥かに綺麗で大きいハナゲの滝が目の前に。
ロープで確保してもらい楽しく登った。私はフェルト、砂田さんはアクアステルスだ。
ほかに滝には2組いて、それぞれが好きな場所を登って行った。下方に見えた団体は、
後から登ってこないところをみるとキャニオニングだったようだ。

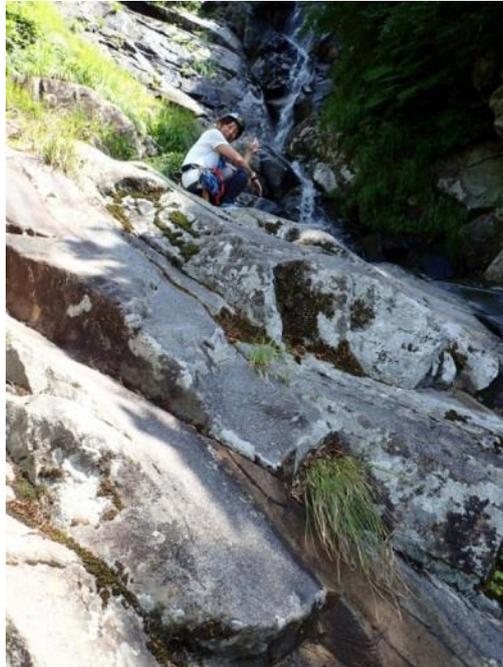
東黒沢 広くて明るいナメが続く



ハナゲの滝



白毛門沢と東黒沢出合い二俣を少ない水量を進むと、ナメ、トイ状、階段状、大小の滝が次々と現れる。ひたすら登る感じで広々とした平坦な場所をのんびり歩くことは全くない。唯一名の付く滝、タラタラノセンは高巻きした。他はどこをどう巻いたか、どう登ったのか、いまいち覚えてないが、攻略したい場合は情報が沢山あるので参考にすると良いかもしれない。滝の中段みたいな場所での休憩が、なんとも贅沢で気持ちが良かったのはすごく覚えている。



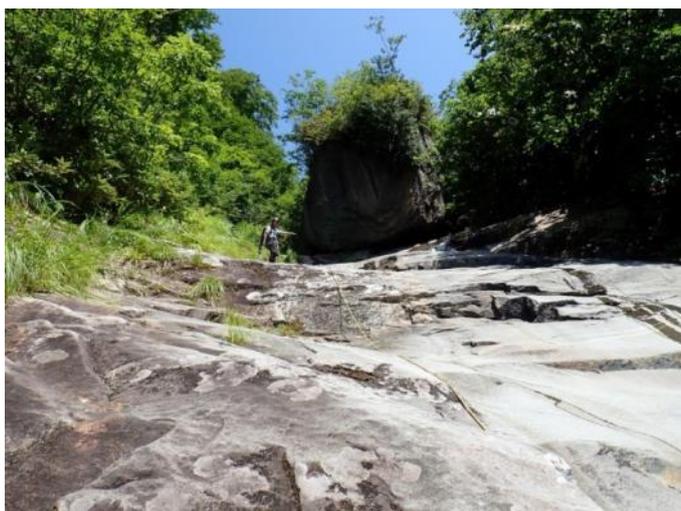
三平師匠のあだ名をもつ大岩の前、20m 大ナメ滝はロープを出してもらって気持ちよくシャワータイム出来た。後から思えばこの時もっと浴びていれば良かった。師匠の脇を進んでもまだまだ6mや4mの滝は少し続くのだが、彼方に目指す稜線が見えてくると、今まで頭上を覆ってくれていた草木も水も徐々に無くなり直射日光を浴びながらの登りになるからだ。

タラタラノセン



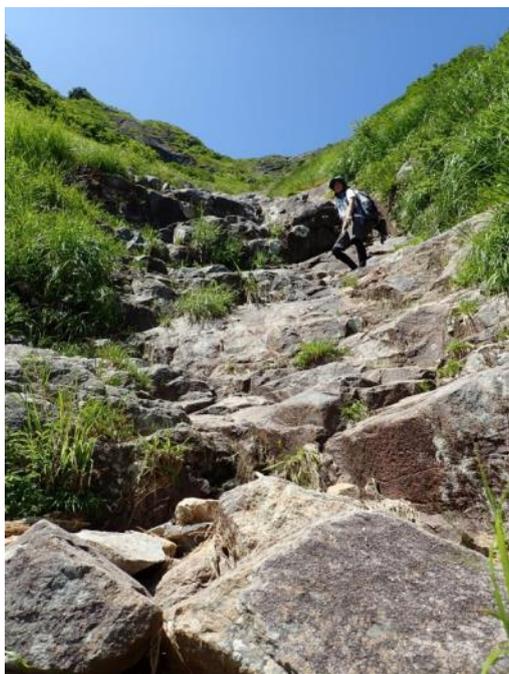
大ナメ滝





大岩

詰めは沢筋の急登となる。 スラブ岩、足が上がらない場所もあり、
ハーネスを外しアプローチシューズに履き替えて大幅に動きやすくなったものの、
落ちたら大変という緊張感でアドレナリンは全開、振り返れば絶景だが楽しむ余裕もそこそこ
一心不乱に白毛門へ登りつめ高低差 1030m 距離 3.4km を体感した。
頂上は風が爽やかに吹きトレラン二人組が通り過ぎただけの静かでおだやかな場所だった。
菊池 P が登っている隣の谷川岳方面ではヘリの音がしていた



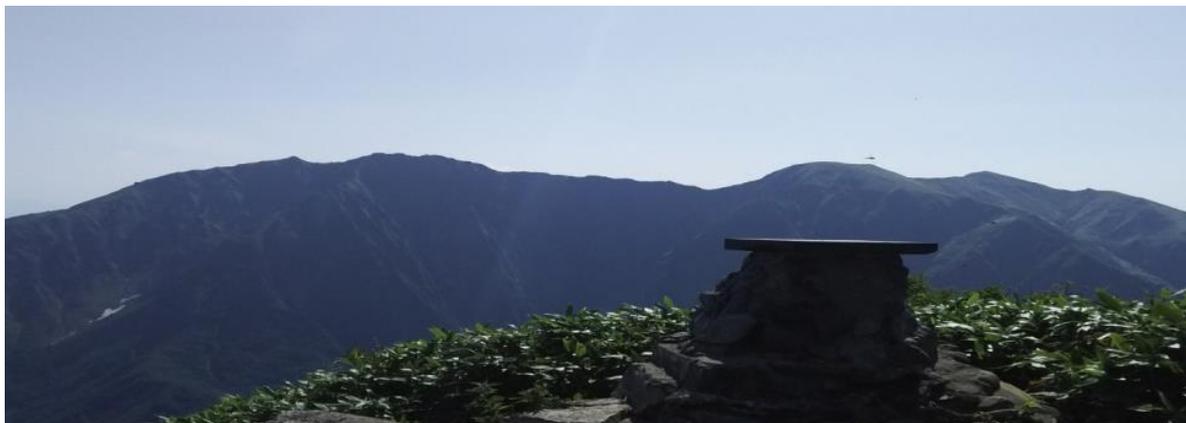
雨が降ったら滝になるのでしょうか??



登ってきた沢筋 土合駅がみえる

予定の時刻を大幅に過ぎて登山道を下り始めるが、これがなかなか気が抜けない鎖場や岩場のある急な道だ。 追いついた沢装備の若者二人は相当バテて「キツイですね～、もう無理」と言っていたので励まして抜かしていく。軽装なので少し心配したが後ほど湯テルメで行き違ったのでホッとした。高度が下がり蒸し暑さがぶり返ってきて確かにキツイ。

もう一人、山頂まで半分位？の所でデカイザックを背負って登ってきたお爺さん、朝の 9 時から登り始めてるってあまりの遅すぎにびっくり。松の木沢はビバーク出来そうか聞いてきたけど無事出来ただろうか？ 私たちも 5 時を目標にお互い下山後に最初に何を飲むか？の話しでモチベーションを保ちながらひたすら下り続けようやく駐車場についた。沢登り後もインパクトがあるスケールのデカイアトラクションのような一日だった。



入溪から駐車場に着くまで、ロープ使用時と危険個所以外のほとんどの行程を、砂田さんの前を歩かせてもらい、よって 11 時間以上もの行動となってしまいましたが、おかげで安心して沢登りを楽しめ、また色々と勉強にもなりました。お付き合いいただきありがとうございました。

松本

